

新ブランド横浜空學堂 キュリオとデスクを制作

試作品づくりや 古い資料と格闘

かなもく塾のメンバー6社がハイエンドのユーザーをターゲットにデザイン・製作した「横浜空學堂」ブランドの立ち上げ新製品となるキュリオケースとロールトップデスクは、いずれも洋家具発祥の地である横浜の歴史を感じさせる、機能性に配慮された作品に仕上がっている。

ブランドの立ち上げを支えた神奈川家具工業会の横内昭次郎理事長は「自分ではこれまでやれば終わりの...というところではなく、前工程の足りないところは次のところ(会社)が補っていくことが大切。疑問に思ったことを出し合って解決すれば、さらに進化していくはずだ」とメンバー間の連携に期待する。

神奈川の業界を牽引する神奈川家具協同組合の神谷光信理事長は「横浜クラシックの良い所を取り入れながら、今のニーズに合ったもの、買ってもらえるものを作らなければならない」

と現代の感性に訴える神奈川ならではのものづくりの精神を強調した。

曲面ガラスを使ったキュリオケースは珍しい。製作にあたった横内製作所の横内真樹営業部長は「左右の曲面扉は、全体の形を崩さずスムーズに開閉できるように精度を高めている。製作作業の効率性も考えた」という。支柱のLEDの光が全体に行き渡るかどうか試作品を作って検証も行った。ガラスケースの下には収納スペースを設け、「飾る」と「隠す」を兼ね備えたキュリオに仕上がった。価格は50万円台になるといふ。



曲面ガラスを採用したキュリオケース



機能性も考えて作られたロールトップデスク

ロールトップデスクを製作したマカロニデザインの野崎義嗣代表は「古い資料を見つけて、先人たちの知恵を拝借して昔ながらのロールトップデスクを再現した」。特に巻き込み戸の錠の精度と、巻き込み戸を閉じると同時に引き出しをロックするカフクリの再現が腕の見せ所となった。クラシックな雰囲気を持つとともに、パソコン用の配線口を設けるなど、今の時代に合った機能性も備えている。材はホワイトオーク。価格は70万円台になるといふ。



前列左から細貝昭一氏(アレックス社長、かなもく塾)、横内昭次郎氏(神奈川家具工業組合理事長)、小安亮氏(同専務理事)。2列目左から岡崎信幸氏(岡崎木工代表、かなもく塾)、野崎義嗣氏(マカロニデザイン代表、かなもく塾)。3列目左から製品開発に協力した熊谷和幸氏(中小企業団体中央会業務推進部主幹)、横内真樹氏(横内製作所取締役営業部長、かなもく塾)

販売戦略が今後の課題

オリジナルブランドを立ち上げて製品を発表した「かなもく塾」にとって販売展開が次の課題となっている。

東京都家具工業組合のオリジナルブランド「tobii」は、東京商工会議所の協力を得て、2008年に関東経済産業局と日本商工会議所が主催する「JAPANブランド育成支援事業プロジェクト」の「リビング・デザイン 東京」プロジェクトとして立ち上がった。現在、色遣いを含めて90アイテムの豊富なラインナップをそろえ、海外4カ国で販売されている。2月21日から24日まで米国のサンフランシスコで開催される「サンフランシスコ・インターナショナルギフトフェア」に出展する予定。これまでブランドを継続することができたポイントは、立ち上げ当初の売れ行きが良かったため、資金的にも余裕があったと大きかった。さらに、同組合の三谷博久専務理事は「リーダーをはっきりさせて法人化した方が事業が進むのではないかとアドバイスしている」。

1面の記事

横浜ブランド「出港」

かなもく塾 ロールトップデスク登場



150年前の欧州モデルを再現したロールトップデスク。意外な仕掛けと機能性を備えている

神奈川家具初のブランド「横浜空學堂」(ウチはまもくがく)「かなもく塾」の新作が「テクニカルショウヨコハマ」(4日〜6日、パシフィコ横浜)で披露された。神奈川家具工業組合(横内昭次郎理事長)のメンバー6社が、それぞれの得意技術を生かしてキュリオケースとロールトップデスクを作り上げた。

【関連記事3面】